

## 商学部における特色ある学部教育の補助「国内実態調査」 報告書

|       |                                     |   |     |   |     |   |        |
|-------|-------------------------------------|---|-----|---|-----|---|--------|
| テーマ   | : 国際的要素を背景とした地域商業空間における消費行動と集客構造の分析 |   |     |   |     |   |        |
| 科目名   | : 演習Ⅲ・Ⅳ                             |   |     |   |     |   |        |
| 担当教員  | : 平澤 敦                              |   |     |   |     |   |        |
| 調査先   | : コースカベイサイドストアーズ、どぶ板通り              |   |     |   |     |   |        |
| 調査期間  | 2025年10月28日                         |   | ～   |   |     |   |        |
| 参加学生数 | 1年生                                 | 名 | 2年生 | 名 | 3年生 | 名 | 4年生 8名 |

### 調査の趣旨（目的）

平澤ゼミでは、「商学的観点から世界を読み解く」という視点のもと、国内外の経済・文化・ビジネスの関係性について多角的に学んでいる。今回のゼミ研修では、横須賀の「どぶ板通り」や「コースカベイサイドストアーズ」、米軍基地周辺を訪れ、地域と国際的要素が交差する現場を実際に見て学ぶことを目的とする。

「コースカベイサイドストアーズ」は、ショッピング、飲食、エンターテインメントなどが融合した多機能商業施設であり、地元住民のみならず観光客や基地関係者など、多様な来訪者層を対象にした戦略的な施設運営が行われている。今回の訪問では、施設の立地やテナント構成、サービス提供のあり方などを現地で観察することで、商業施設における消費行動の多様性や国際性を実感的に学ぶことができると考える。

また、「どぶ板通り」との比較を通じて、地域密着型商店街と多機能型商業施設の役割や集客戦略の違いについても分析を行う予定である。

### 調査結果

コースカベイサイドストアーズはショッピング、飲食、エンターテインメント機能を集約した構成となっており、港湾エリアおよび米軍基地周辺という立地特性を活かし地元住民に加えて観光客や基地関係者など多様な来訪者層を想定した設計がなされていた。テナント構成はチェーン系店舗や標準化されたサービスが中心であり、言語や文化の違いに左右されにくい消費環境が整えられている点が特徴的であった。また、広い通路や開放的な空間設計により目的消費のみならず滞在型消費を促す仕組みが確認された。

一方どぶ板通りでは個人経営の飲食店や物販店が多く、各店舗が独自の個性や世界観を打ち出している様子が観察された。特に米軍文化の影響を受けたメニュー構成や英語表記、店内装飾などを通じて地域の歴史や国際性が商業活動に色濃く反映されていた点が印象的である。また、店主と来訪者との距離が近く会話や接客を通じた関係性の構築が見られるなど、コミュニティ型商業の性格が強いことも確認できた。